

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 N.S

1. はじめに

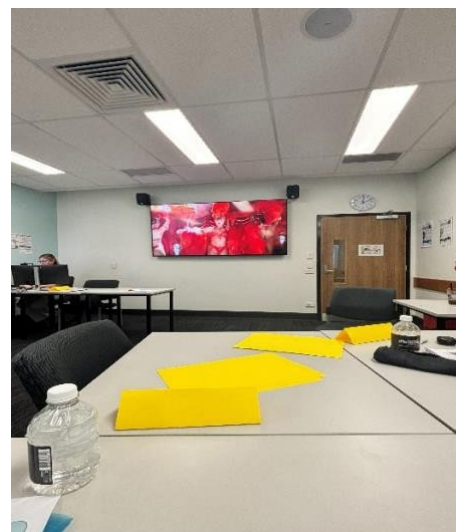
私は国際交流基金の助成を受け、2026年3月9日から3月18日まで行われたオーストラリアにあるグリフィス大学への研修留学に行きました。この留学での経験を報告いたします。

2. 渡航前の目標とその後.

渡航前の目標として「オーストラリアの文化や人々の価値観に触れ、自らの視野を広げることそして、現地の医療を実際に見てこれから医療人になる身として勉学に活かす」ということを考えていました。現地では8日間という短い期間ではありましたが、様々な文化を知れました。グリフィス大学では現地の学生との交流は多くなかったものの、どのような過ごし方をしているのか日本の学生との違いなども見ることができました。また、ホストファミリーとの生活の上で彼らの価値観に触れることもできたため、自らの価値観の拡張にもつながったかと思えます。グリフィス大学病院の見学や現地の医者の方からのオーストラリアの医療体制についての講義も今までに自分が知らなかったことを多く学ぶことができ医療人というものの在り方も学ぶことができました。特に現地の医者の方からの講義では日本とは大きく異なるオーストラリアの医療体制を知ることができ、疑問に思ったことも、直接質問することができたため、非常に良い経験だったと感じます。

3. グリフィス大学での学び.

大学では現地の先生と医療英語を中心にこの画像のような教室で授業を受けました。座学ではなくグループワークで、テキストを用いた学習でした。ここで習った英語を実際にホストファミリーとの会話で使い、実際に使ったことでどのように単語を使うのか知ることができました。また、正しい患者との会話の文法や会話の仕方も学ぶことができました。将





来海外の患者さんに対応する 때가来たときに活かしたいと思ったと同時に日本での学習にさらに積極的に取り組みたいとかがえました。

また、グリフィス大学病院の見学にも行きました。ここではまず、施設の設備の規模が日本と比較して大きいことに驚きました。建物や空間にゆとりがあり、患者や医療従事者が快適に過ごせるように工夫されていると感じました。また、衛生管理が徹底されていました。さらに、患者への思いやりが設備や空間に表れており、安心して医療を受けられるということが印象的でした。患者の病室には患者の情報を書き留めておくボードがあり注意点などが共有されていました。重傷の患者

はガラス張りの部屋にすることで、医療従事者がいつでも患者の状態を確認することができ、安心できる設備だと感じました。

4. ホームステイでの交流体験

ホームステイでは全8日間滞在しました。オーストラリアの家庭で現地の文化や生活を体験する貴重な機会となりました。私はもともとシャイな性格ですが、「交流を通して、文化に触れること」という目標からホストファミリーとの良好な関係を築くため明るくオープンに振る舞うことを意識しました。しかし、その状態を保つことや異文化の中で生活すること、さらに英語での会話をし続けることは想像以上に負担が大きく疲労を感じる場面もありました。それでも日が経つにつれ、ホストファミリーの温かさを感じ心地よく過ごすことができました。また、会話も段々とスムーズに出来るようになり表情も緩んだことでコミュニケーションが捗りより豊かな会話をすることが出来ました。



5. これからの自分

今回の研修を通して得た異文化体験から、オーストラリアで感じた価値観や文化を今後の自分の生き方に取り入れていきたいと考えるようになりました。すべての考えをそのまま受け入れるのではなく、自分の考え方と照らし合わせながら柔軟に取り組んでいくことが大切だと感じました。また、病院見学を通して、オーストラリアの医療体制や現地の様子に触れたことで、これらの知識をもとに今後の学習や実践に活かしていきたいと考えました。さらに今回の経験から多様な価値観や背景を持つ人々と関わることの重要性を実感しました。将来は、患者一人一人の価値観や状況に寄り添い、適切に対応できる薬剤師になることを目標にしたいです。